



岩瀬 計介 議員

教育行政は着実であるべき

問 教育に対する初心は。

答 教育長 総合計画で、町の将来像を「心つなぎ みんな輝くまち 武豊」と示している。「武豊の教育」では、この「つなぎ」を表す言葉として「武豊は一つ」というキーワードで表現し、様々な教育活動を展開。教育行政は着実なものであるべきで、町長主催の「総合教育会議」で協議し、「定例教育委員会」で決議された「教育の指針」「学校教育の重点施策」にある「いのちの教育の推進・学習規律と生活規範の定着」を推進していく。

直接的・間接的にも「武豊の教育」を発信

問 学校運営の在り方をどのように伝えるのか。

答 教育長 学校運営のリーダーシップをとるのは学校長で、毎月開催される校長

会議で、教育長としての思いを各校長に伝えている。学校経営の軸となる校長先生方が、朝礼などで児童・生徒に語りかけ、学校新聞で保護者・地域に紹介し、「武豊の教育」を発信。また、武豊町PTA連絡協議会や各種行事の会合の中で、関係の方々に直接お話をしている。様々な機会をとらえ、直接・間接的にも「武豊の教育」を発信していく。



■小学校の授業風景



福本 貴久 議員

若者が住みやすいまちづくりとは

問 若者が住みやすいまちづくりとは。

答 町長 若い世代に魅力を感じる施策を推進し、『住んでみたい 住んでよかった 武豊町』を実感していただけるように努力する。

北中根保育園で見極める

問 認定こども園と町立保育園とのバランスを含め、どのように進めるのか。

答 町長 北中根保育園での民間移管状況を見極め、柔軟に進めていく。

駅ロータリー駐輪場不可欠

問 富貴駅周辺整備構想の内容は。

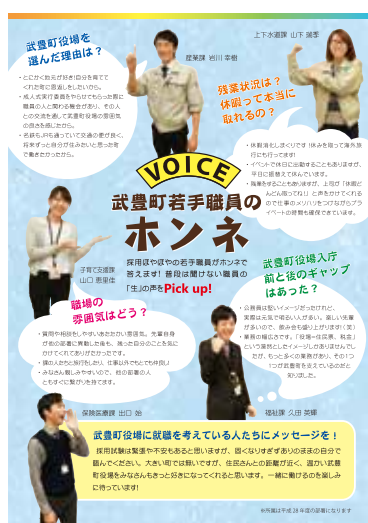
答 町長 駅前ロータリーや駐輪場など、利用しやすい駅にするため、必要不可欠だと考えている。

武豊消防支署移転候補地

問 野菜茶業研究所跡地利用計画策定について、どのように考えているか。

答 町長 防災機能を備えた都市公園整備と、消防支署の移転の候補地として予定している。

若者が住みやすいまちづくりとは 魅力を感じる施策を推進する



■職員採用パンフレットより抜粋



石川 義治 議員

問 多文化共生の推進を 答 重要施策のひとつである

外国人への対応は

町内で外国人を多く見かけるようになった。その実態がわからないことで、外国人への不安の声を聞くこともある。多文化共生が求められていると考える。

問 ゴミ捨てに関して、ルールをよく知らない外国人により一層の対応をすべきと考えるが、見解は。

答 環境課長 外国人用のゴミ捨てルールの説明パンフレットの多言語化、外国人居住者の多い地域に看板の増設を検討する。

問 外国人が災害時に避難するための看板をどのように設置していくのか。

答 防災交通課長 できるかぎりの外国語の表記を検討していく。



■資源とごみの分け方・出し方（ポルトガル語版）

問 多文化共生への対応は。

答 町長 重要施策のひとつとして認識している。

問 外国人の在住数を広報誌などに記載できないか。

答 企画部長 ホームページや広報誌に分かりやすく掲載できるよう検討する。

※他に「バーベキュー場の設置について」の質問。

問 集い憩える場所の適正な整備を 答 北部地域の調査研究をしていく



久野 勇 議員

住民が集い憩える公園に

問 長成池公園は、散策路に草が生い茂っていて、適正な保全が必要と思うが、簡易舗装などをしたらどうか。また、公園に遊具の増設やテニスコートなどの施設設置の考えや、トイレ改修の計画はあるのか。

答 産業課長 草刈りの回数を増やし、周りの自然と調和した整備方法を調査検討し考えていきたい。

答 環境課長 中部知多衛生組合に確認したところ、公



■長成池公園の風景

園の遊具増設、運動施設設置、トイレ改修の計画はない。今後、補修・改修のタイミングで要望していきたい。

貴重な壱町田湿地をもっと活用

問 壱町田湿地の保全管理、ベンチの設置、トイレの改修についての考えは。

答 教育部長 適切に保全管理している。休憩ベンチ、トイレについては快適で親しみやすい施設をめざし、段階をおいて検討する。

しだれ桜の行く末は

問 野外活動センター跡地にインターチェンジ設置構想があるが、しだれ桜などの保存ができないか。

答 町長 可能な限り、町民が憩い・楽しみ・安らぎを感じることができ、緑豊かな場所となるよう土地所有者へ要望していく。



甲斐 百合子 議員

問 健康マイレージの更なる充実を

答 若い世代へ情報発信したい

小学生用作成の考えは

問 小中学生への働きかけはどのようにしているか。

答 健康福祉部長 現在、小学校と調整段階である。小学校4～6年生に対し、「健康に関するアンケート」を行う際に、今年度から健康マイレージ事業の資料を配布し、児童やご家族にアプローチしていく。

問 小学生用マイレージを作成してはどうか。

答 健康福祉部長 現行の形で進めていきたい。家族で取り組んでいただけなのではと考えている。

問 今後の「健康たけ」とよスマイレージ」の充実の考えは。

答 健康福祉部長 事業を開始してまだ1年でもある。今後は、若い世代へ向けた情報発信に



■新しくなったチャレンジシート

力を入れ、より多くの方に参加していただけるよう検討していく。

軽度・中等度難聴児の補聴器購入補助制度の導入を

問 今年度から、愛知県で事業開始になるが、居住市町でも事業を導入しなければ支援を受けられない。本町での支援導入の考えは。

答 町長 実施について、検討を進めていきたい。

問 名鉄武豊駅西グランドデザインは

答 地域との連携を図り取り組む



鈴木 一也 議員

駅西グランドデザインを考えるにあたり、知多武豊駅東区画整理事業の経験を反映させ、住民が納得し期待される計画が必要と考え

「思いやりのキャッチボール」の更なる推進を

問 地権者が共同で土地利用する「まちづくり会社」の構想はどうなったのか。

答 建設部長 地権者や地域のみなさんで、勉強会や先進地の視察をしたが、実施に至らなかった。

賑わいづくりの拠点となる町施設整備について検討会を立ち上げ検討している。

問 駅東地区では、移転先が見つからない地権者もいるが、時期までに移転できない時の対応は。

答 都市計画課長 引き続き移転先の検討を依頼していくが、場合によっては、時期を遅らせることも視野に入

れて検討する。

問 駅西のグランドデザイン計画は。

答 町長 30年50年後のまちを想定。諸課題を整理し、時間をかけて構想を描く。検討にあたっては、地域と連携を図り、町の顔にふさわしい構想となるよう夢を持って取り組む。

※他に「アダプトプログラムによるまちづくりについて」の質問。



■区画整理が進む武豊駅東地区



櫻井 雅美 議員

問 保育・教育の拡大充実への考えは

答 魅力あるまちづくりに拡充は必要

問 あおぞら園の待機児童へは今年度から新規事業を展開

答 あおぞら園は定員17名に対して、ここ数年多くの待機児童が出ているが定員の増員は考えているか。また、待機児童への対応は。

健康福祉部長 定員については、今後の課題と捉えている。

また、待機の方については、今年度から新たに、わかば保育園の1室を利用して相談・支援事業を展開する予定となっている。

工夫をすれば先延ばしにせずできる可能性はある

問 財政状況から保育園整備は、かなり先延ばしになりそうだが、これから合計特殊出生率を上げていくためには、お金がないから縮小・削減ではなく、人・収入を増やすために、保育・教育を拡大・充実する必要があると思うが、どのように考えているか。



■おゆうぎを楽しむ園児

副町長 財政的に守る時にも必要だが、将来の武豊町を考える中では、攻めるべきところもある。東大高保育園のリニューアルも、工夫すれば先延ばしにしないで、できる可能性はある。保育や教育も合わせて公園・道路・施設などインフラを拡充させ、魅力あるまちづくりが大切だと考えている。



本村 強 議員

問 町の収入を増やすための施策は

答 情報収集に努める

「入るを量り、出るを制す」とは、細井平洲の名言である。本町の中長期財政計画からも、ここしばらくの間、歳入増化の見通しも立たず、依然、不透明状況が続くと思われる。

歳入増が見込めない今、何をなすべきか

問 歳入を増やすための取り組みは。

答 町長 公共施設の使用料の適正化、国県補助事業の最大限活用、町所有未利用地の売却、広告収入の確保などである。

問 財源確保のために、ネーミング・ライツ（愛称命名権）の検討は。

答 企画部長 まだ検討段階ではなく、これからの課題と考えている。

問 歳出を抑えるために、電気代節約の手法として、LED灯への交換を加速化しては。

答 総務部長 役場本庁舎では、本年度60基の交換を予定。全施設において、使用頻度の高いところから、交換していく予定である。

問 歳入増加が見込める平成35年度まで、温水プールの建設予定を延期したらどうか。

答 副町長 既に2年の延期をしており、基金も積み立てを開始している。温水プールの熱源の交渉も済んでいる。財政的には、大丈夫である。



■役場本庁舎に設置されているLED照明



青木 信哉 議員

通学路の安全について

問 地域住民やボランティアによる通学時の見守りは、

答 教育部長 各小学校では

スクールガード、太陽の会、北山見守り隊、民生児童委員などの諸団体の他、個人も含め多くの方々に、通学路を見守っていただいている。

問 子ども110番の家があるが、どのようなお願いをしているか。

答 教育部長 防犯マップに

掲載し、児童は危険があった時に駆け込む場所を確認している。これからは交通安全の他に防犯にもマンパワーが必要なため、今ある制度を充実していく。

問 防犯ブザーの効果は。

答 教育部長 前任の緑丘小学

校では、多くの児童が利用していた。実際に使用した事例はないが、有効である

と考える。

また、毎年1回愛知県警察の防犯教室を通じて、防犯ブザーの使い方や、先生が110番の家への駆け込み方を指導している。

問 不審者情報への対応は。

答 教育部長 不審者情報対応マニュアルから、本人・

保護者への聞き取り、警察への連絡、保護者への確認を、教育長と校長会が協議しメール配信を決定している。

答 教育部長 メールの内容に

よっては、地元の方々による見守りや、見通しがよくなるように草刈りなどの対応にもつながっている。



■衣浦小学校の交通指導風景



梶田 進 議員

支給要綱が改定

問 就学援助の要保護児童・

生徒の入学準備金の支給が、実際に必要となる入学前に支給できるよう文科省の支給要綱が改定された。支給要綱改定に合わせて、武豊町も支給できるようにされたい。

答 町長 就学援助の新入学

費の入学前支給については、判定の基礎となる所得の把握など申請から支給までの事務処理上の時間的制約、認定支給後で転出した場合に生ずる二重支給などの課題がある。

先進地や近隣市町の動向を見ていく中で考える。

来年度からの実施を

問 先進的なところは、入

学説明会の折、申請手続きの説明をしている。所得については、前々年度の所得で判断している。来年度から実施を求める。

答 教育部長 行政としてい

ろいろな方面から、間違はなく執行できるような制度を調査研究している。

※他に「外来生物への対応について」の質問。



問 入学前に就学援助金の支給は 答 必要性を調査研究している